







閑雜記卷之三

呂氏春秋の稱しあるをいへりしをわく六の論
よりしるべし千里の地を治むるに始の刑をやめ
るはとていひし文王千里の地を治むるに始の
始の刑をやめしをいひし民の心とていふ
しるべしとていふ民の心とていふ千里の地を治む
るに始の刑をやめしをいひし文王を智とていふ
とていふとていふ耳目所聞見齊荆燕嘗に矣宋中
山已に矣趙魏皆に矣其皆故國矣とていふ

昭和三十年
一月十八日
購求

劍湖在兵法兵湖之... 兵士... 濠... 渠... 云... 不能載也... 鑿晉... 通鑿...

通鑿後漢紀曰舊錢出入者以八十為陌
 宋紀事本末曰放紙鳶置文書其上至蒙古營

則斷以誘被俘者

宋元通鑿曰劉琦使善沒者鑿沈其舟

續博物志曰濶東西風則晴東風則雨濶西西風
 則雨東風則晴又曰木與木相摩則然金與火相
 守則流陰陽錯行則天地大統於是乎有雷有霆
 水中有火乃焚大槐人間往々見細石形如小斧
 謂之霹靂斧又曰玉門之西有國山山上有廟國
 人歲々出磧數千名霹靂... 石...

けいそぬるをちねらすとあましく日ふしし
ふさひつさつさし末さしうさくへん
とまねくまき穀末あまのこをうしはは考りいの根れ款のふもいさよの四合
を水にゆき交りうまきのめはねくさし
けいそけいさいのひんをのりやけい腸胃
をうさくしられふ二川をさくし
薬末四合を煮く和しくしはねくまねく
けいそをのふし一さきをゆきまねく
さししよりとめかきさしぬきさくり
秘字はさしあふあふのふをさくさくさし

故着第一のふさしといふ事
さふさんのまはぬふのこらぬさくふさふ
よの多し一薬書中ふあさくさくさく
一多めをさくさく胸及法流を治さくさく
さくさく咳嗽呼吸促迫或は流痛癆瘵咽喉
不利心悸怔忡四肢顫振眩暈心志懸弱結愛同
等れ病を治さくさく外症積復痛血創法流の字
塞苦胆石淋膀胱堅癰を結成しと血凝
法流字難産法流病し月いさくありさく
さく夜疾を治さく又痔瘡を治さく外症さく

とうろろ本居をよまるといふは、いふも是れをいふとさかへ
——廿日斗もさしてさうさういふおと細い
ありさういふ一貫目程のふしの砂糖の上
ぬつち布をくちきあへくうさきさうさか
是に二三寸のふしをさうさういふ
とわさくおとさういふのさうさういふ
えれゆさうのさうさう砂糖さうさうぬこのおと福母人
結州、漂々いふさうさういふ
享保年中の典薬の抄書みまはるのさう
ちまう抄書さ

耳小むいといふは、磁のつけいふは生薑をい
ひつゝいふ耳はれあめをいふさうさ
耳のさうぬれいふは地黄の根をいふさうさ
よつゝいふは耳の穴さうさ
を水血のさうさいふは磁のさうさいふは
く頂上といふは又おとさうさういふ
方一寸のさうさういふはさうさういふ
にいふさうさ
のさうさういふは牛膝さうさういふは
さうさういふはさうさういふ

霞のたふしきふいぬのうら左女に右のうら
しめさふさふさ血をあらはしきまの血をふふ
るのひくし柳のちをせんしよこしめしひき
つさくけささうのひもよ
大津の虫れゆるぬりし杉やまをちまか
丸くし葉をあらまよしき四七粒さゆり
くくつた

血のこらふし蜂の巣をやらうくほくくのみ
おふの本と東とさしめる栗のれ枝等ふ
やまふしほくくつた

くらはめのたふさしあしき
しきつさし又つゆささささ
まきさしきささささささ
りし菌をさつあよをられし
ふかささしあさささささ
犬のらしきし席をささささ
けよふしきのおさし又犬の尾を
あかりやささしきつげさ
さふささしきさささささ
前をさつささささつ

きつぬぶまのれ多敷女ふ。移のちをせん
てあふふ。あふの移をせん。あふのせん
ふふ。あふのせん。あふの皮をせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
盗汗。大夢を志る。移の湯を
てあふふ。あふのせん。あふのせん
にらふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん

てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん

てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん

てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん

てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん
てあふふ。あふのせん。あふのせん

たりんつ池...
 目子...
 如...
 の名...
 この...
 天...
 實...
 田...
 田...

埴...
 う...
 め...
 と...
 あ...
 め...
 一...
 三...

よ六七夜や〜とまると〜ニシテ夜と申すは〜
〜と申すは〜美と申すは〜ふくたに木を〜
首〜決まら上の〜海に〜一美の上は
山石と〜石の美と〜入る所と〜あつて
めと〜と〜い〜と〜の〜り〜の〜り〜
めれ、美〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
引しれ〜れ〜と〜めらめ〜と〜り〜れ〜り〜の〜は〜
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
袋のり〜と〜と〜めれ、美〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

寢屋のうら四五尺と穴と〜と〜と〜と〜と〜と〜
た〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
十寢屋の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
のつ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
程子曰多聞識者猶廣儲藥物也然須知所用為
貴
又曰君子之學必日新日新者日進不日進者必日
退未有不進而不退者〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

又月到天心處風來水面時一般清意味料得
少人知

楊應之題居壁云有竹百竿有香一爐有書
千卷有酒一壺如是足矣

東坡詩承天夜游云元豐六年十二月十二夜
解衣欲睡月色入戶欣然起行念無與樂者
遂步承天寺尋張懷民亦未睡相與步于中
庭中如積水空明水中藻荇交橫蓋竹柏影
也何夜無月何處無竹柏但少閑人如我兩人耳
戴安道曰蔭映巖流之際偃息琴書之側寄心

松竹取樂魚鳥則澹泊之願畢矣

唐子西有詩云山靜似太古日長如少年餘花
猶可醉好鳥不妨眠世味門常掩時光祝已便
夢中頻得句拈筆又忘筌

倪文節公曰松聲山禽聲夜蟲聲雀聲琴
聲梧子落聲雨滴階聲雪灑窓聲煎茶聲
皆聲之至清者也而讀書伴吾聲為最

醒言曰聽瀑布可滌蒙氣聽松風可豁煩襟聽
簷雨可止勞慮聽鳴禽可息機管聽琴絃可消
躁念聽晨鐘可醒潰腸聽書聲可東游想

又曰漆木作絳真色大黃濃煎汁刷上晒乾又
刷先五七次用石灰淹之乾則調勻色成擦去其灰
又曰鍊琉璃法黑錫四錢目硝石三錢目白凡二錢目白
石末二錢目右搗飛極細以鍋用炭火鎔前三物和
之欲紅入朱欲青入銅青欲黃入雌薰欲紫入代赭
石欲黑入杉木炭並攪勻全成色用錢筭夾抽成
條白則不入他物

又曰治轉筋松節木用酒煎服

又曰治湯火傷腦月山茶花為末香油調付

又曰治傳尸勞瘵阿魏一錢目桃枝大握栝榔一錢

目甘草三寸青蒿大握葱白三寸以童便二升浸桃

蒿葱廿四味煎取六合却入阿魏更煎三沸作

二服盥服時入栝榔末半丸攪勻服了必吐

後必安時再服一服勞虫必出送藥人勿與患

人對立若男患則以女人煎藥女患反是忌雞犬

等觸抱一年五服病自除根

又曰治針入肚不出方右酸棗燒存性為末温

酒調服覺額痒即從原入處出如患在上食後

服在下食前服

又曰辟蟻凡器物用肥皂洗抹布抹之則蟻不上

又曰擣犀角解成小塊如豆薄紙包內人懷中乘
暖急投口中搗之應手成粉

又曰研乳香用紙包內壁縫中良久研如粉或以
燈心同研亦可

又曰禁竹根穿過指砌聚皂角刺埋土中障之
則心

又曰引竹過牆法竹根所及處埋死猫或狸即過

又曰心竹生米竹生米即欲枯死初生時取大者一
根截上心留下三尺空其中實以糞即心

又曰爛錫法以水銀潰其爛如泥

又曰爛銅法右以鳥糞入水同煮即可雕刻

梳頭令髮不落法側拍葉又大片胡桃去壳榧子肉

三个同研細以擦頭皮或浸水常搽亦可

治雀卵班方白梅肉櫻桃枝猪牙皂角紫背萍為
細末常洗面極能去班

治體氣并口齒惡臭方丁香半錢霍香葉零陵

香甘松各三錢香附子白芷當歸桂心枳擲益智

仁各一錢白豆蔻二錢射半錢為細末煉蜜為齋杵

干下丸如桐子每含化五丸服至二十日身香

取麝方素皮柳皮小灰陳草灰石灰五灰用木

煎濃汁入醱醋點之

寒日迎風令手不冷方以馬牙硝為末唾調塗手
及面上

治狐臭方以白灰用隔一二年陳米醋和傳腋下

これら多能部 予より此等々の口より出

るとに汗多きれは此のようしてとらむ

六硯為紙中ふあられ一とせのほ供きせし

るひひ

正月 元のちれあくともあつる又いひのりき

れいれれれれ ちちちちちち ちちちち

てんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

柳のあをさかしく それのちやうど

花神いれ

やま 志のあをさかしくあるのちちちちち

ちちちちちちちちちち

う月 月のをあをさかしくあつるちちちちち

何れもあつるのち神人あつるちちちちち

雨のちちちちち

正月 ち月あつるのちちちちちちちちちち

あやめの高 梅のしつろつてうた

乳母 おうちのつゆのりも志なきし 夕日のあめ

こころぬれまきせしきこぼれ くれも

ふら目 夕つとほあしそそあられかきし

まらふししほもこころ やらねのうらま

さく月 ちしめくそつれし衣ひくま

ちれくつらふれねのうせまきくま

うらまのうら

まふ目 まつちく虫のまきまれ ひらるくま

のね あれまのなふさくま

ねらるれえ

まふ目 あゆれの指しゆのまきま せしほ

うらまのうらしふせのねまき

いは目 目まきまきよまのまきまきま びら

埋ちまのうらまきまのまきま

ふやらまき

堆米、張成揚茂周明とらねと梅も存星

宗人まきしほまきまきまきま ねん緑まきま

まのまきま 堆米金糸まきまきま 王園王賢

王山王桂装 呂詠黄成と合まきまきま

少多病...のよく...
生潤...
八...
...
...
...
...

多浪一味糊丸...
糊...
徐氏筆精曰鴨脚子即银杏也歐陽永叔和梅

聖俞詩云鶴毛贈千里所以重其人鴨脚雖百箇
得之誠可珍此果此地不能種今人又呼為白菜
其葉頗似鴨脚又鮑照賦園葵上有鴨脚二字
又曰治鼻衄川芎當歸生地黃人參各半錢側柏
葉白芍藥伏苓各三錢
又曰治頭風痛荊芥一錢目川芎一錢目白芷一錢
風牛旁子各半錢
又曰相馬法骨欲潤臆欲平食槽欲寬下唇欲
寬口又欲深上唇欲方鼻欲寬大眼下欲有肉面
欲如剝先眼如垂鈴脰骨欲圓耳欲如削筒頰

骨如負繫欲茸細髻欲高項欲長細而彎排
鞍欲厚脊梁欲平腰欲短促硯骨欲平腹欲平
助線骨欲密汗溝欲深后看欲約如尾欲端尾
骨欲短外腎欲小腿欲如琵琶尾欲茸細后脚
欲曲曲池欲深屈節欲曲后路欲尖節欲近節骨
欲鹿脚欲大而實腕欲促胫骨欲細鐙肉欲厚
蹄欲圓前脚欲直掌欲高

傳家寶曰除燈蛾臘月四九內雪水浸燈草晒
乾點燈蟲蛾俱無救萬千生命功德無量又
臘擦油燈能碎蛾

固齒老年全賴牙齒飲食滋養須於壯年凡小
便緊咬牙閉口每早叩齒幾遍至老不衰日上

久瘡即用密陀僧研為極細末於未發前一時
用酒送下六分或五分勿弱減半服後心中嘈雜
餓半日即愈日上

夢遺用淘布帶將大腿一隻或右或左扣緊項
睡醒則解伸左右更換曲腿睡自止日上

耳聾用菖蒲木通全蝎胭脂各五分麝香
一分其為末用黃蠟三錢勻化待微冷入前藥
和為丸如黍核樣磁器固收勿走藥氣以綿裹

これらもあまなりしもの三千ありしを、
りたれぬ、
けりしを、
うらひく没し、
いふもの伊勢守のつきの代、
これ、
とらむ、
あま、

徐氏筆精曰左傳僖二十二年僖負羈盤餐
寘餗焉晉公子重耳受餐返餗故事本此人
誤以為蒲相如事曰完餗曰歸趙味之甚矣
又曰天孫數名漢時有貢此數者曰以名測以
藏秘書

又曰牛走順風馬走逆風故曰風馬牛不相及
又曰桂海虞衡志云打碑用袖子皮蘸墨以代
檀宜墨而不損紙試之良然
又曰捕蟬今之禳子捕蟬每用楮膠塗竹竿
梢上粘之即得曹子建云怪采竿之冉、号運

微粘而我纏欲翻飛而逾滯兮知性命之長捐
自古已然矣

又曰猫之善捕鼠者日常睡终日跳擲者必不
捕鼠見陳仁齋集猫不捕鼠者名麒麟猫有
味

